

目黒区のみどり

みどりの実態調査報告書 概要版

2014（平成26）年度

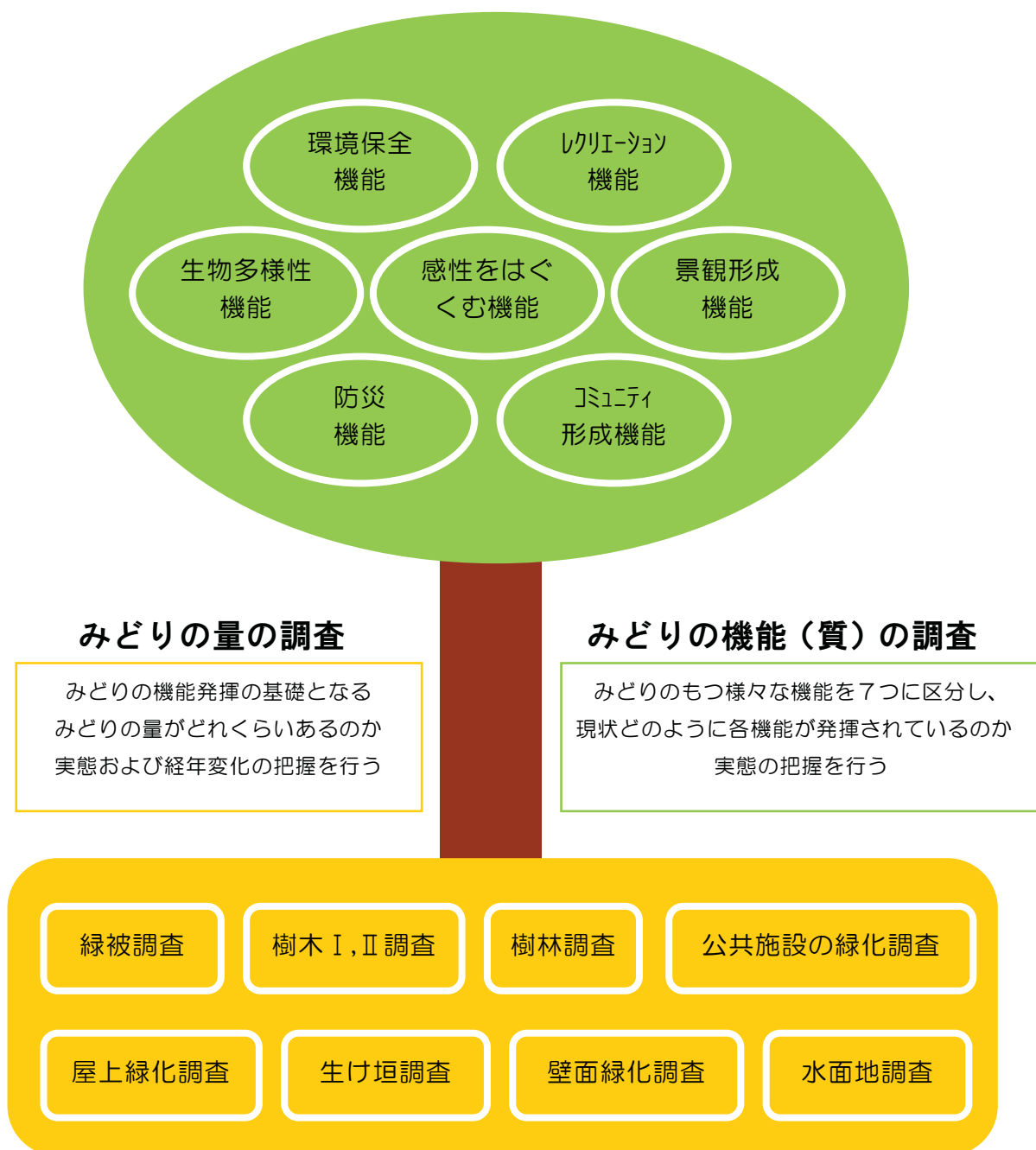
空から見た目黒
（空中写真）



2014年8月5日撮影

みどりの実態調査とは・・・

みどりは自然や生物と調和し、私たちに潤いや安らぎを与えてくれるなどの効果をもたらしてくれます。また、空気浄化やヒートアイランド現象の緩和などの役割も担っています。みどりの実態調査は目黒区みどりの条例に基づき、区内のみどりの現況と経年変化を把握するために行っており、前回調査(2004(平成16)年度)に続き6回目の調査となります。今回はみどりの量の調査に加え、みどりの機能(質)の調査を実施しました。この結果は目黒区の今後の緑化施策を推進するため、また「目黒区みどりの基本計画(2006(平成18)年10月)」の改定に向けた基礎資料となります。



緑被の現況

目黒区の緑被率 17.3%

目黒区の緑被面積（上空から見て芝や樹冠など緑で覆われた面積）は 254.3ha で、緑被率は 17.3% です。

前回調査（2004（平成 16）年度実施）と比べて、緑被面積が 3.2ha、緑被率が 0.2%増加しています。

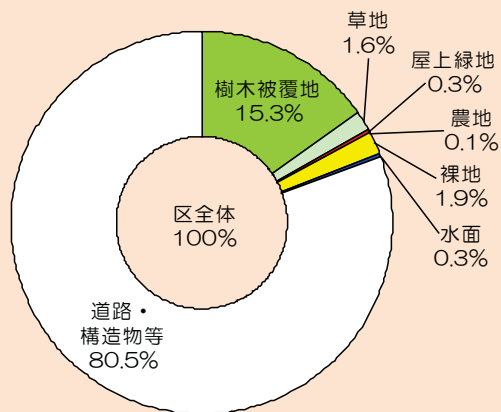


図1 区全域に占める緑被等の構成比

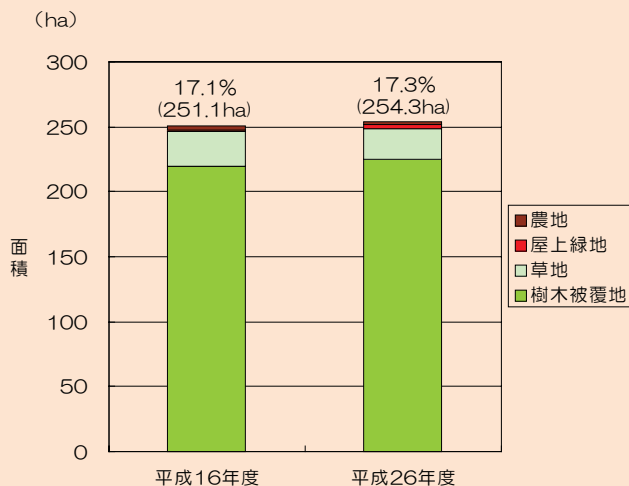


図2 緑被面積および緑被率の推移

緑被率：緑被面積が区全面積に対して占める割合
樹木被覆地：樹木、灌木に覆われた土地

緑被率の分布

一番高いのは駒場住区 31.9%

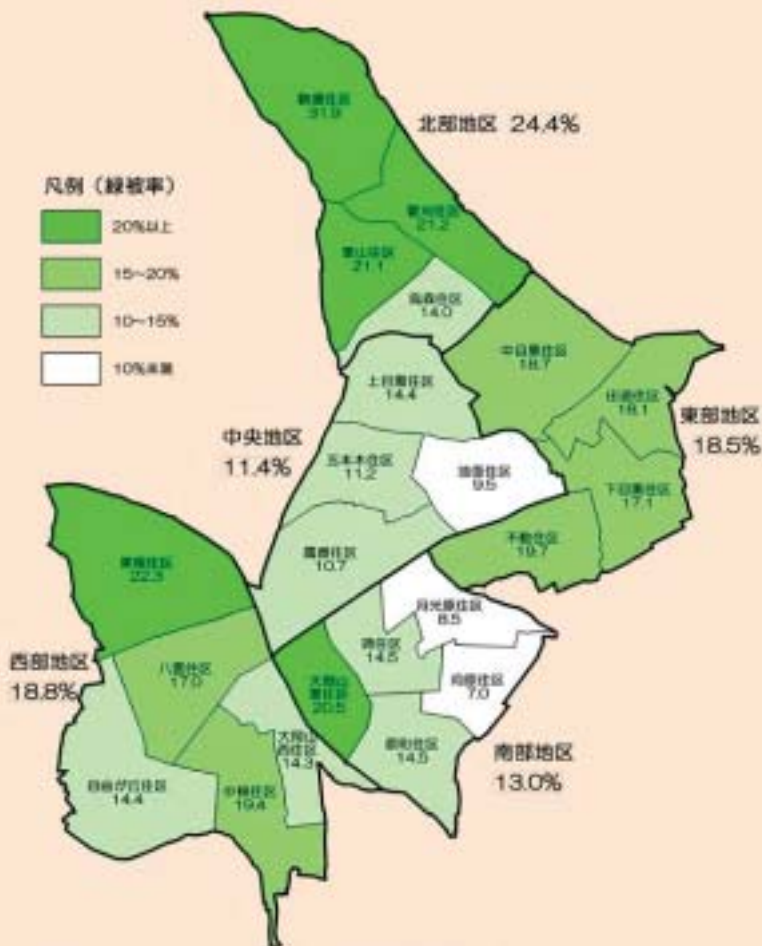


図3 住区別の緑被率状況

緑被率が最も高い住区は駒場住区で 31.9%、最も低い住区は向原住区で 7.0%となっています。

地区別では、北部地区が最も高く 24.4%、中央地区が最も低く 11.4%となっています。

土地利用区分の緑被では、緑被面積のおよそ 54%が私有地にありました。公共施設は、緑被面積が 15.7ha 増加でしたが、私有地では 20.1ha の緑被面積が減少しています。

23区の緑被率では、23区中13位、樹木被覆率は、23区中8位です。

樹木

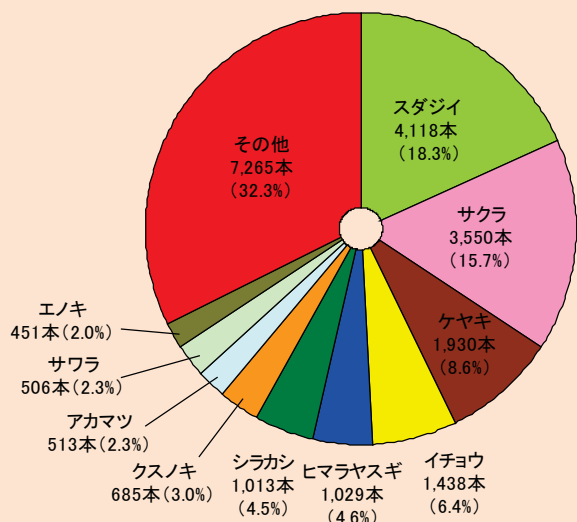


図4 樹種別樹木本数

※グラフは道路植栽の5,885本分は含みません。

区内の樹木は28,365本です。前回調査から10年間で1,577本減少しています。

住区別にみると、最も樹木が多いのは駒場住区で3,410本です。また、最も少ない住区は向原住区で206本です。

樹林

樹林（300㎡以上の樹木被覆地）面積は115.2haあり、5.5ha増加しています。

前回調査から10年間で、10,000㎡以上の規模の樹林は、樹木の成長や周辺の緑地との連結などにより、さらに規模の大きな樹林を形成するようになっていきます。

一方で300～1,000㎡の規模の樹林は面積、箇所数ともに減少しています。

水面地

自然水面（河川、池など）と人工水面（ピオトープなど）の合計面積は9haあります。

そのうち、およそ72%は河川が占め、その他の主な水面は公園や大学の池です。

水面地のうち約9割が自然水面でした。

屋上緑化

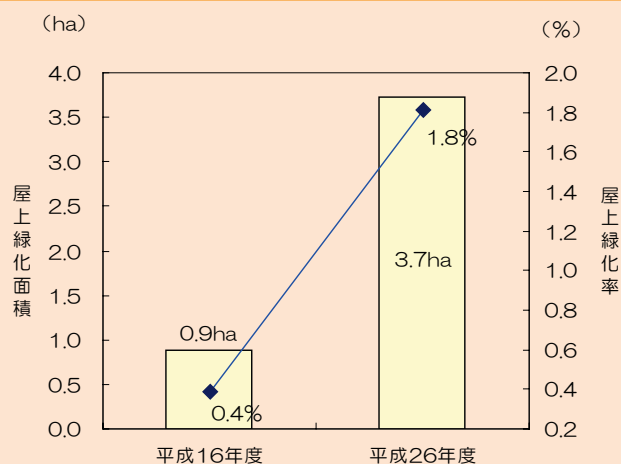


図5 屋上緑化の経年変化

屋上緑化率は1.8%です。

前回調査から10年間で、面積はおよそ4.2倍、屋上緑化率では約4倍に増加しています。

これは条例により、一定規模以上の新築建築物に対する屋上緑化を義務化したことが増加の要因と考えられます。

屋上緑化率：緑化可能である水平な屋上の面積に対する屋上緑化された面積の割合

生け垣

延長20m以上、高さ0.9m以上の生け垣は、469箇所・総延長18,402mでした。

前回調査から10年間で、箇所数・延長ともに2倍以上増加しています。

カナメモチ、イヌツゲ、ヒイラギモクセイなどの種類が多く見られます。

壁面緑化

接道部において建築物の壁面緑化は18箇所確認され、合計壁面緑化面積は604㎡です。

前回から箇所数・面積とも増加しています。

公共施設の緑化調査

区全体の公共施設（区立施設）の緑被率は、前回調査では13.0%であったのに対し、16.2%と3.2%増加しています。